

【テーマを設定する】

保育室の窓が大きく太陽の光がたくさん入ってくる場所であるため、日頃から子どもたちが窓から入ってくる光や影に興味を示す姿が見られた。光は普段から触れることができる身近なものであり、光によって生じる現象や特性について、子どもたちの興味関心をさらに深めていくためにこのテーマを設定する。

【活動スケジュール】

★1歳児★

5月 影をみつけたよ

7月 虹をみつけたよ

12月 アクリル積み木であそぼう

★5歳児★

6月 万華鏡を作ってみよう

10月 アクリル積み木であそぼう

1月 アクリル積み木とライトテーブル

活動① 影を見つけたよ～1歳児～

●問いを考える

・保育室内に差し込む光の中で、普段見慣れないうさぎの形の影が映し出された際、子どもたちは自と見つけたり指をさしたり触れてみようとする姿が見られた。そこで「これは何だろう」「どうしてお部屋の中にうさぎがいるのだろう」「触るとどうなるだろう」といった問いをもとに、子どもたちの不思議に思う気持ちや興味関心を大切にしながら活動をすすめる。

●環境をデザインする

- ・光が差し込む場所
- ・子どもたちの発言を受け止める環境

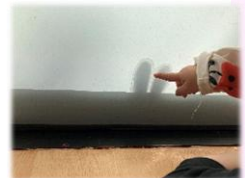


●探究活動を実践する

・室内に差し込む自然光の中で現れたうさぎの影を子どもたちと一緒に観察をした。
 ・子どもたちは影をじっと見つめたり、指先で触れたり、保育者に「あっ」「うさぎさん」と声を出して伝える姿が見られた。
 ・保育者が応答的に「うさぎさんいるね」「どこからきたのかな?」「うさぎさん触れるのかな?」などと言葉を添えていくことで、子どもたちは繰り返し影に近づいたり、自分の手を光の中に入れて影の変化を見たりしながら、光や影への興味関心を深めていった。

●振り返りを踏まえた気づき

・普段何気なくある光の中に現れた影が、子どもたちにとって新しい発見となり、立ち止まって見つめたり、触れて確かめてみるする探究的な姿に繋がっていった。
 ・1歳児は目で見ただけでなく、実際に触れたり体を動かしたりしながら不思議さを確かめようとする姿が多くみられることを改めて感じた。
 ・今後も自然光や身近なものを活用しながら、光や影の変化を感じられるような環境を整え、子どもたちの「なんでだろう」という気づきや発見を大切にしていく。



活動②お部屋に虹ができた ～1歳児～

●問いを考える

・カラーセロハンを使った制作遊びのなかで、子どもたちは透けて見える色に興味を示し、手に取って眺めたり、重ねたりする姿が見られた。完成したステンドグラスを窓に飾ると、差し込む光によって床や壁に様々な色が映し出された。そこで「光を通すとどうして色が見えるのだろう」「色はどのように変化するのだろう」「触ったり動いたりするとどうなるのだろう？」という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・様々な色のカラーセロハン
- ・窓から光の差し込む場所
- ・透明テープを貼り付けた枠



●探究活動を実践する

- ・カラーセロハンを使ってステンドグラスの制作を行い、赤や青、黄色など様々な色に触れながら見たり重ねたりすることを楽しんでいた。
- ・完成した作品を窓に飾ると、太陽の光を通して床や壁に色鮮やかな光が映し出され、子どもたちは「あっ」と声をあげたり、映った色に近づいて触れたり、光の上に立ってみたりする姿が見られた。
- ・保育者も「赤色があるね」「ここは何色かな？」「虹みたいだね」など言葉を添えながら、一緒に発見を共有し、子どもたちが光や色の変化に気づき、繰り返し関わるができるよう関わっていった。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・制作活動からは生まれた作品が、自然光によって新たな遊びや発見につながり、子どもたちの興味がより広がっていく様子が見られた。
- ・同じ作品でも時間帯や光の入り方によって映る色や場所が変化することから、自然環境そのものが学びに繋がることを実感した。
- ・今後も様々な素材や自然光を取り入れていきながら、こどもたちの「きれい」「ふしぎ」「やってみたい」という気持ちを大切に環境づくりを行っていきたい。



活動③アクリル積み木であそぼう ～1歳児～

●問いを考える

・太陽の光が差し込む保育室の中で、透明感のあるアクリル積み木を準備すると手に取ってのぞき込んだり、光にかざす姿が見られた。そこで「光にかざすとどうして色が見えるのだろう」「積み木を重ねたら色はどうなるのだろう」「映った色はどこにいくのだろう」といった問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・アクリル積み木
- ・光が良く差し込む場所



●探究活動を実践する

- ・太陽の光が入りやすい保育室の一角にアクリル積み木を用意し、自由にとって遊べる環境を整えた。
- ・子どもたちは積み木を光にかざしたり、並べたり、積み重ねたりしながら、色が混ざり合って変化する様子を興味深く見つめていた。
- ・アクリル積み木の前後にできた影がグレーではなくカラフルな色になったことに気づき、保育者に伝えたり部屋を見渡し真っ白な壁に反射した色が映し出されていることに気が付き、「虹みたい」と保育者や友達に伝える姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

- ・普段遊んでいる木製の積み木とは違う、アクリル積み木との出会いから、影の色が変わったり反射したりと新たな発見を楽しみ、子どもたちなりに色の変化や光の反射に自然と興味を持ち、自ら積み方や並べ方を変えてみたりと試したり確かめたりする姿が見られた。
- ・自分が見つけたことを保育者や友達に伝え、発見や喜びを共感する経験に繋がっていることが感じられた。
- ・今後も光の当たり方や素材に違いによって生まれる様々な変化を楽しめる環境を整え、こどもたちの「やってみたい」「みつけた」という探究心を育てていきたい。



活動①カラーセロハンで万華鏡を作ろう ～5歳児～

●問いを考える

・日常生活の中で、窓から差し込む光や影、透明な素材を通した色の変化に興味を示す姿が見られた。そこでカラーセロハンを通した光の変化や模様の美しさに触れながら、「光はどのように見えるのだろう」「色のついた透明のものに光を通すとどうなるのだろう？」という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・トイレットペーパーの芯
- ・カラーセロハン
- ・光が良く差し込む場所

●探究活動を実践する

・トイレットペーパーの芯とカラーセロハンを使って、自分だけの万華鏡づくりに取り組んだ。
 ・子どもたちは好きな色のセロハンを選び、油性ペンで自由に絵や模様を描いた後、芯に貼り付けて万華鏡を完成させた。
 ・完成した万華鏡を窓際にもっていったり、ペンライトを中に入れてみたりしながら「赤と青が混ざって紫みたい」「お花みたいな形になった」「こっちは暗いと見えない」など、光の当たり方や見る場所による違いに気づく姿が見られた。
 ・友達同士で作品を見せ合いながら、「こっちの光の方がきれい」「外で見るともっと明るい」など、試しながら比較したり発見を共有したりする姿も見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・活動を通して、子どもたちは光そのものだけでなく、光や色が模様を映し出し、見え方を変化させることに気づくことができた。
 ・また、「場所によって違う」「色を重ねると変わる」といった発見から、自分なりに予想したり試したりしながら探究する姿が見られた。
 ・一人一人が感じた美しさや不思議さを言葉で伝え合うことで、友達の気付きにも関心をもち、さらに試してみようとする意欲にも繋がっていった。
 ・今後も身近な自然現象や素材を活用しながら、子どもたちの「なぜ」「やってみよう」を大切にしたい探究活動につなげていきたい。



活動②アクリル積み木であそぼう ～5歳児～

●問いを考える

・前回のカラーセロハンを使った活動を通して、光を通すことで色や模様の見え方が変化することに興味を持つ姿が見られた。そこで今回は、透明感のアクリル積み木を使い、太陽の光に当てることでどんな変化が起こるのかに目を向けられるよう、「光が当たるとどんな影ができるのだろう」「色を重ねるとどう見えるのだろう」「積み方をかえると何かわかるのだろう」という問いをもとに活動をする。

●環境をデザインする

- ・アクリル積み木
- ・光が良く差し込む場所



●探究活動を実践する

・太陽の光が差し込む場所で、アクリル積み木を使った遊びを行った。子どもたちは好きな形や色の積み木を選び、並べたり重ねたり積み上げたりしながら、地面や机に映る色付きの影を観察した。
 ・「赤と黄色を重ねたらオレンジみたいになった」「高く積むと影も長くなる」「こっちに置くと光がたぐくさん見える」など、積み木の置き方や重ね方、光の当たり方によって影や色の見え方がへんかすることに気づき、自分なりに試行錯誤する姿が見られた。
 ・友達と「ここに置くとどうなるかな?」「一緒に大きいお城みたいにしてみよう」と声を掛け合いながら、協力して大きな作品を作ったり、できた影の形や色の違いを見比べたりする姿が見られた。

●振り返りを踏まえた気づき

・光が物を照らすだけでなく、透明な素材を通すことで色のついた影ができたり、色同士が重なって見え方が変化したりすることに気づくことができた。
 ・「場所をかえたらどうなるだろう」「もっと重ねたら違う色になるかな?」と、自ら予想を立てて試す姿が見られ、光への興味関心がより深まった。
 ・友達と発見を共有したり、自分の考えを言葉にする中で、新たな気づきに繋がる場面も多く見られた。
 ・今回の活動から身近な自然現象の不思議さや面白さに触れながら、自分で考え、試し、発見する探究の楽しさを感じる姿が育まれていた。



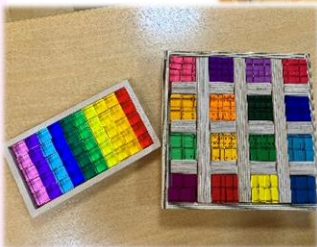
活動③アクリル積み木とライトテーブル ～5歳児～

●問いを考える

・これまでの活動で、カラーセロハンやアクリル積み木を通して、太陽の光のよって色や影の見え方が変化することに興味を持つ姿が見られた。同じアクリル積み木でも光の種類が変わると見え方にどのような違いがあるのかに着目し、「太陽の光とライトの光では何が違うのだろう」「積み木の色はどのように見えるのだろう」という問いをもとに活動をすすめる。

●環境をデザインする

- ・アクリル積み木
- ・ライトテーブル



●探究活動を実践する

・ライトテーブルの上にアクリル積み木を並べたり、重ねたり、高く積み上げたりしながら遊びを進める姿が見られた。
・子どもたちはライトテーブルの下から当たる光によって、積み木の色が鮮やかに浮かび上がる様子に気づき、「キラキラしている」「同じ赤でも陽の光の時とは違う色に見える」など、太陽光での遊びとの違いを感じとる姿がみられた。
・異なる色の積み木を重ねながら「赤と青で紫みたい」「黄色の上に置くと色がかわった」「いっぱい重ねると暗くなるね」など、色の重なりや光の透け方の変化を楽しみながら、何度も並べたり組み合わせたりする姿が見られた。
・友達同士で「こっちもみて」「この組み合わせきれいだよ」「木の積み木もおいてみよう」と発見を共有しながら、一緒に模様や形を作る姿が見られ、遊びが広がっていった。

●振り返りを踏まえた気づき

・同じ素材でも、太陽の光とライトテーブルの光では色の見え方や明るさ、影の映り方が異なることに気づくことができた。
・光の当たり方や色の重なりによって見え方が変化することを、自分の目で確かめながら繰り返し試す姿が見られた。
・「こっちの光の方が明るい」「重ねると違う色になる」「下から光ると中まで見える」など、自分なりの発見を言葉にする姿が増え、これまでの経験と結びつけながら考える様子も見られた。
・活動を重ねる中で、光の不思議さや面白さに対する関心がさらに深まり、比較したり予想したりしながら探究を進める姿に繋がっていった。様々な素材や環境に触れながら「やってみたい」という気持ちを大切に活動を引き続き継続的に行っていく。

